

1. 法面勾配と植栽

低木以上の樹木を植栽する場合には、2割(1:2)より緩やかとする。最大でも 30 度以下とする。また、芝刈機械を使用する場合には、3割(1:3)以下とする。

<表1>法面勾配と植栽・緑化工法

法面の勾配	植栽・緑化工法
1%以上	シバの最低水勾配3%以上が望ましい。
10%前後	苗木植栽での森づくりでの好ましい築山の勾配。
5割(1:5)以下	除雪車が進入可能な勾配。
3割(1:3)以下	芝刈機械の使用が可能。
2割(1:2)以下	3m前後の樹木の植栽可能。
30度以下	3m前後の樹木の植栽の限界。土壌によっては土壌流失防止のための法枠が必要。
30度～45度	種子吹付工法、植生マット工法、植生袋工法などの土木的な緑化工法や、苗木と簡易土留め材(シガラ等)使用の生態学的手法(自然配植緑化)などの緑化工法とする。
45度～60度	基盤材吹付工法や基盤材充填工法などの特殊緑化工法とする。
60度～75度	擁壁兼用の緑化ブロック、溶接金網カゴ使用の緑化とする。または、壁面緑化とする。

2. 法面植栽での留意点

- ① 植栽基盤は物理・化学性に優れたものとし、雨水を貯めやすくまた余剰水を速やかに排水基盤とする。排水の悪い基盤の場合、排水層とパーライト詰め通気・排水管を設置する。
- ② 法面の表層は法面崩壊防止・保護と乾燥防止のために、地被植物などで被うことが必要。
- ③ 法尻には土壌流出防止のためのエッジ材やシガラ等を設置する。
- ④ 法面は乾燥しやすいので、耐乾燥のあるやせ地でもよく生育する樹木の植栽が望ましい。
- ⑤ 法面に樹木を植栽する場合には、1m以上の草の背丈より大きな形状のものを植える。また、大きな樹木を植える場合には必ず支柱を設ける。
- ⑥ 植栽する樹木は、ポット苗のほか、切り株などの植栽方法がある。一般の高木植栽より生育がよい。
- ⑦ 一般的な土地で使用するシバの種類例としては、ケンタッキー31 フェスク(40%)、レッドトップ(20%)、レッドフェスク(20%)、ホホワイトクローバー(20%)、基準播種量は 20～25g/m<sup>2</sup>。
- ⑧ 郷土植物の種子として、草本では、ヨモギ、イタドリ、ススキ、メドハギなど、木本では、ヤマハギ、イタチハギ、エニシダ、ヤシャブシ、ヤマハンノキなどがある。洋シバと混播する。



・30度の勾配での法面植栽



・土砂流出防止のための簡易土留め材の設置



・1mの苗木植栽に法面緑化



・土留め材の仕様の法面植栽



・現地発生材使用の土留め使用の法面植栽



・石材の法面での植栽



・溶接金網カゴを使用した法面植栽



・擁壁専用の緑化ブロックを使用した緑化